

慣用句の日英比較から見る単語の使用法と発想の違い

福井県立武生高等学校 探究文科 3年

1 Abstract

Our research question is “What are the differences in word usage and image comparing Japanese and English idioms?” We found some studies comparing idioms in different languages and finding differences. We find it interesting to study idioms so we decided to study words that no one had studied before. We followed a study done by Mikiko Kihara. We compared idioms using “sky”, “cloud” and “mountain” by classifying them into three categories. We concluded that idioms have differences when a word is used as a metaphor.

2 はじめに

この研究は言語の違いについて考え、言語について理解を深めるために慣用句について研究を行う。ここでの慣用句とは、習慣として長い間広く使われてきたひとまとまりの言葉・文句、言い回しのことである。言語の中でも、慣用句では日本語と英語でそれぞれの単語の使われ方に特徴があり、その言語が使われている地域の文化、宗教、環境などさまざまな要素が反映されている。英語話者は日常的に慣用句を使うため、日本語話者は英語の慣用句の学習にとっても苦勞する。そこで、慣用句の日英比較を行い、相違点、共通点を見つけることで、コミュニケーションを円滑にできるのではないかと考えた。先行研究には身体名や動物の名前を含む慣用句を違う言語で比較したものが、相違点や共通点が研究を通して明らかにされていた。そこで、私達はまだ誰も比較したことがない単語について研究することに決定し、その中でも比較するのに十分な数の慣用句があった「空」、「雲」、「山」の3つの単語について比較していく。

3 問い

私達の問いは「慣用句の日英比較から見る単語の使用法と発想の違いはどのようなものか」である。ここでの「使用法」とは「慣用句の中で単語がどのように使われているか」であり、「発想」とは「英語の慣用句を日本語に直したときどのような単語が当てられているか」とする。この問いを解決することを目標とし、研究を進めていく。

4 先行研究

私達は、木原美樹子、2015、『身体名を含む慣用句日英比較—「腕」とarmを中心として』を参考にして研究を進めた。本稿では、日本語の「腕」と英語のarmを含む慣用句を比較し、日英語の相違とその理由について考察されている。日英語の相違がどのようなところから生じているのかについて、語源的、文化的な観点から考察されている。

5 研究方法

- 1 「空」「雲」「山」の単語の意味を調べる。
(2002)「研究社新英和大辞典 第6版」(2018)「広辞苑第7版」
- 2 日本語と英語でそれぞれの単語を含む慣用句を調べて数える。
- 3 日本語と英語の慣用句を以下ア～ウの項目で分類する。
 - ア 似た発想で形式が違うもの
意味は同じだが、使っている単語が違う
 - イ 発想も形式も似ているもの
意味も使っている単語も同じ
 - ウ 発想も形式も全く違うもの
同じ意味で同じ単語を含む慣用句をもう一つの言語で調べたときに対応する慣用句がない
- 4 それぞれの単語が慣用句の中でどのような意味で使われているか調べる。
- 5 日本語と英語の慣用句を比較して相違点や共通点を調べる。
研究方法3の分類方法については福井大学の皆島先生からアドバイスを頂いた。

6 結果・考察

研究方法1 「空」「雲」「山」の意味は以下日本語、英語の順にまとめる。

日本語

「空」

- ①地上に広がる空間
- ②空模様。天候。時節。
- ③落ち着くところのない、不安定な状況。
- ④心が動揺し落ち着かないこと。放心。また、一つに決めかねている心境。
- ⑤根拠のないこと。当て推量をすること。うそ。
- ⑥暗記。暗誦。
- ⑦うえ。てっぺん。
- ⑧何となく。「一おそろしい」
- ⑨しても効果がない。「一だのみ」
- ⑩偽りの。真実の関係がない。「一寝」「一耳」

「雲」

- ①空気中の水分が凝結して微細な水滴または氷晶の群となり、空に浮いているもの。
- ②雲のように一面になびいて見えるもの。
- ③極めて遠い場所、高い場所。また、高い階級。
- ④行動・所在が確かでない物事のたとえ。
- ⑤心の晴れないことにたとえていう。
- ⑥火葬の毛塗りをたとえていう。
- ⑦紋所の名。浮雲をかたどったもの。

「山」

- ①平地よりも高く隆起した地塊。谷と谷との間に挟まれた凸起部。古く、神が降下し領する所としての信仰の対象とされた。
- ②特に比叡山、また、そこにある延暦寺の称。園城寺を寺というのに対していう。
- ③鉾山のこと。
- ④山陵。御陵。
- ⑤猪・鹿などを捕らえるために仕掛ける落とし穴。
- ⑥うず高く盛ったもの。山にまねて作ったもの。
- ⑦山形になった所。
- ⑧山林。平地の林をもいう。
- ⑨盛り上げたものを数える語。
- ⑩物事の多く積み重なっていること。また、そのもの。「借金の一」
- ⑪物事の絶頂。最も肝要な部分。
- ⑫万一の幸を願ってすること。やまごと。やまかん。
- ⑬檀尻のこと。
- ⑭山鉾の略。
- ⑮(名詞に冠して)同類のうちで、山野に自生するもの。「一ゆり」「一桜」

英語

”sky”

- ①上空、雲のある場所
(地上より丸天井に見える)空、天

- ②(気象上の)空模様、天気、気候、風土
- ③〔詩、文語〕天、天界、天国
- ④空色
- ⑤《英口語》(絵画陳列所内の)最上列
- ⑥(廃)雲

”cloud”

- ①雲
- ②雲状のもの、もうもうとしたも
口語 タバコ、パイプなどの煙
- ③(顔面、額に漂う疑惑・不安・悲哀などの)曇り、暗影、かげり
- ④(昆虫・鳥などの)大挙して空を飛ぶ群れ、大群、大勢、多数、集団
(鏡、大理石、琥珀などの)曇り、傷
- ⑥曖昧にする。ぼやけさせる。混乱させる。〈判断などを〉鈍らせる。
- ⑦雲で覆う、曇らせる。〈空などを〉暗くする
[不安・心配ごとで]〈顔などを〉曇らせる
〈ガラス・鏡などを〉曇らせる
- ⑧-に悩みの色[憂いの影]を投じる
- ⑨〈名声・評判などを〉汚す、傷つける
- ⑩雲模様[黒いまだら]であやどる
- ⑪〈液体を〉白く濁らせる

”muntain”

- ①山、山岳
山脈、連山、山地(通常1000フィート以上のhillよりも大きいものをいうが、厳格な区別はない)
- ②山のようなもの、山ほど大きなもの、山ほど高いもの、山ほど(の量)、多量
(値崩れ防止のため市場に出さない)大量の余剰製品;(商品の)莫大な滞貨
- ③〔歴史〕山岳党
- ④〔鉄道〕マウンテン型機関車
- ⑤マウンテン(ワイン)

研究方法2 日本語と英語で調べた慣用句の数を数え、下の表にまとめる。

図1 調べた慣用句のそれぞれの数

	「空」	「雲」	「山」
日本語	25	18	40
英語	23	26	25

研究方法3 慣用句の比較をア～ウに分類し考察したものを以下に示す。

ア 似た発想で形式が違う慣用句 157個中8個

(1)「青天井」

“The sky is the limit.”

意味:取引や賭け事の場合で金の上限がないこと

〈考察〉

どちらも「空が限界」という意味だが、実際には空は尽きることはないので、「上限がない」という意味の慣用句となっている。日本語では「青」は青空を表し、「天井」も上の方にあるものということから「青色の天井」という言葉で「青空」を表している。また「天井」を「限界」という意味で用いている。英語では、“the limit”が日本語の「天井」と同じように限界を表している。

(2)「雲を霞と」

“Take to the hill, go over the hill, head for the hills.”

意味: 一目散に走って姿を隠してしまうさま

〈考察〉

どちらも姿を隠して逃げることを「雲」、「霞」、「hill」に隠れるという言葉で表している。日本では「雲」と「霞」を用いて、雲や霞がかかると姿が見えなくなることを表している。英語では“hill”を用いて、丘を越えることで姿が見えなくなることを表している。

イ 発想も形式も似ている慣用句 157個中12個

(3)「山を抜く力」

“Faith will move mountains.”

意味: 強大な力

〈考察〉

大きな力がないと動かせないものの例として山が使われており、力の大きさの度合いを山を動かすほどの力として表している。日本語は「史記」の「抜山蓋世」から、英語は「マタイによる福音書」から派生している。

(4)「雲行きが怪しい」

“a cloud on the horizon”

意味: 嫌な予感

〈考察〉

雲が立ち込めるのと同じように、雲が来て天気が悪くなりそうであることから、物事の成り行きや状況が良くない方向へ向かっていることを表す。

(5)「青天の霹靂」

“come out of a clear blue sky”

意味: 突然、予期せず

〈考察〉

日本語では、青く晴れ渡った空に突然雷が鳴り出すことを表す。英語では、何かが空から突然降ってくることをたとえている。どちらも青空の様子が突然変わることを表している。

ウ 発想も形式も全く違う慣用句 157個中137個

(6)「生きた空もない」

“have one’s heart in one’s mouth”

意味: 生きた心地がしない

〈考察〉

日本語は「空」を心の状態と言う意味で用いている。それに対して英語では、何かに極度に怯えているときに、何かが喉に詰まったような感じがするという恐怖感を、「口の中に心臓がある」という表現で表している。

(7)「空を歩む」

“on pins and needles”

意味: 落ち着かない様

〈考察〉

日本語では、空の上を歩くことは安定した地面がないためできないということから、空の上を歩くことは落ち着かないと言うことを表している。英語では、ピンや針のような細いものの上に立っているまたは座っているような動揺を表している。

7 まとめ・課題

発想が似ているものは例(1)～(5)で示されるように「山＝大きい」、「空＝高い」など、感覚的に同じように感じるものは似たような意味で慣用句に用いられている。

一方、例(6)(7)で示されるように比喩的に単語を用いている場合はそれぞれの慣用句で違う単語が用いられており、共通点は少ない。

今回の研究では集めたデータをア～ウのように分類した。しかし、ウに分類されるデータがとても多く、より良い分類方法があるのではないかと考える。そのため、今後はより良い分類方法を見つけたり、より大きな違いはないのかなどを調べたりしていきたい。

8 参考文献・謝辞

福井大学教授 皆島博先生

竹林滋 (2002) 「研究社新英和大辞典第6版」 研究社

新村出編 (2018) 「広辞苑第七版」 岩波書店

学研時点編集部(2014)「用例でわかる慣用句辞典 第二版」 学研

GRASグループ (2006) weblio辞書 https://www.weblio.jp/phrase/%E7%A9%BA_1 2022年6月15日

Wordy (2019) 四字熟語・慣用句・ことわざ一覧検索 <https://kanji.reader.bz/stroke/list/%E7%A9%BA> 2022年6月15日

株式会社ルックバイス (2022) オールガイド <https://all-guide.com/kt00962/> 2022年6月15日

株式会社アクセル (2016) 慣用句一覧検索 <https://proverb-encyclopedia.com/kanyoukuitiran/> 2022年6月15日

FARLEX (2002) The Free Dictionary <https://idioms.thefreedictionary.com/cloud> 2022年6月15日

NTTレゾナント (1999) goo辞書 <https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E3%81%9D%E3%82%89/idiom/> 2022年6月15日